5. フラネースの毒性試験

伊野波　盛　仁

フラネース顆粒はウナギの薬浴に比較的多く用いられるようになってきている。今回標題の試験をフランス産ウナギについて行なったので報告する。なお本試験に用いた薬剤は、大日本製薬株式会社沖縄連絡所から寄贈された。

1　方　　法

5ℓガラス製ビーカを飼育容器として、夫々に調整した飼育水を2ℓずつ入れた。飼育容器は直射日光があたらないようにしたがとくに掩いをして暗くする等の処置はほどこしてない。飼育水には送気もしてないが時々ガラス棒で攪拌した。薬剤濃度はフラネース顆粒重量そのものを用いた。フラネース含組成は10％である。長時間薬浴の場合でも薬剤の調整は頭初の1回のみである。

2. 結　　果

1）長時間薬浴の場合6.25 ppm 区では72時間後からへい死魚が現れるが、その半分の濃度の3.125 ppm 区は120時間まで対照と変りない。だから以上の濃度での長時間薬浴はへい害をおよぼすようである。

1表　長時間薬浴

供試魚種：ヨーロッパ産クロシコウナギ　A. anguilla,
供試魚体長（全長）：平均68.0（60.6～80.4）mm
供試魚体重：平均0.20（0.13～0.26）g
水温：21～24 ℃
実験年月日：1972.4月21～25日

薬液浸漬濃度 (ppm)	生残尾数 観察時間（時） 0	6	9	12	24	58	72	96	120	生残率
400	5	4	1	0						
200	5	4	2	0						
100	5	4	3	0						
50	5	5	5	4	0					
25	5	5	5	5	2	0				
12.5	5	5	5	5	5	0				
6.5	5	5	5	5	5	5	4	3	1	
3.125	5	5	5	5	5	5	5	5	5	
対照(0)	5	5	5	5	5	5	5	5	5	

2) 短時間薬浴の場合

15分までの薬浴では極めて高い3000ppm の濃度でもあまり影響はないようである。しかし1時間以上の薬浴になると750ppmでもその影響が現れる。

2表　短時間薬浴

供試魚種：ヨーロッパ産クロツコウナギ A.anguilla,
供試魚体長(全長)：平均67.9(62.8～73.0) mm
供試魚体重：平均0.16(0.09～0.24) g
水温：21～24 ℃
実験年月日：1972. 4月21日～25日

薬液濃度 (ppm)	浸漬時間 (分)	生残尾数 観察時間(時) 0	12	24	57	72	96	120	生残
3000	15	5	5	5	5	5	5	5	
〃	30	5	5	5	4	3	3	2	
〃	60	5	5	5	2	0	0	0	
〃	120	5	4	1	0	0	0	0	
1500	15	5	5	5	5	5	4	4	
〃	30	5	5	5	4	4	4	4	
〃	60	5	5	5	1	0	0	0	
〃	120	5	4	1	0	0	0	0	
750	15	5	5	5	5	5	5	5	
〃	30	5	5	5	5	5	5	5	
〃	60	5	5	5	2	1	0	0	
〃	120	5	5	3	0	0	0	0	
対照	0	5	5	5	5	5	5	4	

フラネース顆粒について、指示されている用量は常法では長期の場合1 ppm 以下であり、今回の実験結果はこの指示濃度における薬剤のウナギに対する安全性を確認するものである。